

地域社会との緊密な連携を築こう

～ 学校・家庭・地域の橋渡しを担うPTAを目指して ～

刈谷市立朝日小学校PTA

1 学区及び学校の概要

本地区は刈谷市の南部に位置し、学区は安城市と境を接している。学区の東側には住宅地が広がり、西側には田畑が広がっている。市内や近隣の市にはトヨタ自動車関連の工場も多く、学区内を通る国道では、工場間を行き来する車やトラックなどの交通量も多い。

本校は、全校児童数640名、支援学級を含め23学級と市内でも中規模校である。近年では、学区に居住し、トヨタ自動車の関連工場で働く外国人が増え、現在42名の外国籍児童が在学するなど多様性豊かな学校である。

2 研究のねらい

本校は、「あかるく元気な子 さがし求める子 ひとの心がわかる子」の教育目標のもと日々の教育活動を行っている。本年度の重点努力目標の一つに「安心安全な学校づくり」が示されている。学校教育だけでなく、保護者や地域の方の力を借りながら、地域と連携していくことで、子どもたちの成長を支えていく体制を強固なものにしていきたい。

3 研究の仮説

PTAが主体的に学校教育活動をサポートする行事・活動を計画的に設定し、学校・地域と連携して活動していけば、地域の中で安心して健やかに成長する子どもの育成に寄与することができるであろう。

4 研究の方法

地域の協力を得ながら学校の教育活動に協力し、PTA行事を企画運営したり、地域の関係諸団体と連携・協働する場を計画的に設定したりする。

5 研究の実績

(1) 子ども見守り活動

本校では、PTA生活厚生委員会を中心に、PTA会員とボランティアの保護者に児童の登校の様子を見守る「旗当番」の活動を行っている。また地域では、防犯パトロール隊やスクールガード、子ども見守り隊などの自治団体が組織され、登校途中の子どもたちの見守りや子どもたちの登下校に付き添っていただいている。学区内には道幅の広い国道や、交通量の多い交差点など子どもたちの登下校には危険な箇所も多い。そのため、子どもたちを見守る場所や付き添いの方法などについて、それぞれ



の組織が分担し、連携して活動することにより、子どもたちはより安全に登下校することができている。

(2) P T Aバザー

毎年9月には、P T A主催のバザーを行っている。コロナ禍により以前のように地域の方にもバザーに参加していただくことはできていないが、提供品（主に標準服や体操服などの学用品）については、在校生の保護者からの購入希望も高いため、地域の回覧板等を活用して、卒業生や地域から広く提供品を募集している。地域の方に学校や子どもたちの様子、P T A活動について理解を深めてもらうよい機会となっている。



(3) 親子防災教室・車中泊体験会

昨年度からの新しい取組として、P T A主催の親子防災教室・車中泊体験会を行っている。いつ、どこで、どのように起こるが分からない災害に対して、実際に学校の運動場で車中泊をすることによって不便さを体験する機会としている。昨年度は市役所の危機管理課と連携して、防災備蓄として、学校に備えられている備品を使った活動（段ボールベットや段ボールパーテーションの組み立て等）や備蓄品として備蓄してある非常食の試食会等を行った。また、本年度は地区の自主防災会とも連携して、車中泊体験や水消火器による疑似消火体験、地域防災に関する講演を行ったり、市役所の水道課と連携して応急給水活動を体験したりすることができた。これらの活動を通して日頃から、いざというときにどのように行動したらよいか、親子で話をするよいきっかけとなった。



6 研究の考察

P T Aが学校・地域との連携を深めることで、学校に協力していこうとする気風が根付く。そしてP T Aが学校・地域と連携して、ともに教育活動を支えることで、子どもたちは安心して健やかな成長を遂げることができていると考える。

7 成果と今後の課題

少しずつではあるが、以上のように保護者や地域と連携した取組が、子どもたちが安心して学校生活を送ることができる環境づくりや、健やかな育ちを支える輪を広げることにつながったと感じた。本校でも、共働きの家庭の増加によるP T A加入率の低下、P T A活動について理解が得られにくい状況である。今後も子どもたちにとってよりよい成長の場となる活動を願い、P T Aの負担を軽減しながら、工夫・改善をし、子どもたちの教育活動に役立つ事業を企画運営していきたい。